

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

三軒家東小	学校	児童数	68(5年生)
-------	----	-----	---------

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.74	20.91	33.50	41.17	48.41	9.20	158.00	20.25	53.55
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	14.19	18.75	42.77	37.88	34.63	9.91	141.04	12.35	53.65
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、本校の体力状況は概ね良好であった。体力合計点は男子53.55点、女子53.65点で、いずれも大阪市平均を上回った。男子は全国平均も上回っており、高い水準にある。

男子は上体起こし、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とびで市・全国平均を上回り、敏捷性や持久力、瞬発力に強みが見られる。一方、握力やソフトボール投げは平均をやや下回った。

女子は長座体前屈や上体起こしで良好な結果を示したが、50m走、20mシャトルラン、ソフトボール投げでは全国平均をやや下回った。

質問紙調査では、「運動やスポーツをすることは好き」と肯定的に回答した割合が、男子100%であり、大阪市(93.5%)および全国(93.4%)を上回った。女子においても86.7%で、市(85.0%)および全国(85.8%)を上回る結果であった。運動に対する意識は概ね高い状況にある。

また、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子4.0%で、市(12.7%)、全国(9.8%)を下回った。一方、女子は28.6%で、市(20.0%)、全国(17.3%)を上回っている。

以上より、本校は体力合計点および運動意識において概ね良好な結果を示しているが、種目や男女間で差が見られる状況である。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

これまで本校では、体育授業の充実とともに、業間運動や外遊びの奨励、体力向上に向けた取組を継続して推進してきた。その成果として、体力合計点は男女ともに大阪市平均を上回り、男子は全国平均も上回る結果となった。特に、反復横とびや20mシャトルラン、立ち幅とびなど、敏捷性や持久力、瞬発力に関わる種目で成果が見られる。

また「運動やスポーツをすることが好き」と肯定的に回答した割合は男子100%、女子86.7%と高く、運動に対する意識が育っていることも大きな成果である。男子については、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合も4%と低く、日常的な運動習慣が一定程度定着していると考えられる。

一方で、握力やソフトボール投げなど筋力や投力に関わる種目には依然として課題が見られる。特に女子は、50m走や20mシャトルランの数値が全国平均をやや下回り、さらに総運動時間60分未満の割合が28.6%と市・全国を上回っていることから、運動機会の不足や体力の二極化が懸念される。

今後は、基礎的な筋力向上を意識した系統的な指導の充実に加え、女子を含めすべての児童が無理なく継続できる運動機会の創出が必要である。体育授業の工夫だけでなく、学級活動や縦割り活動、家庭との連携を通して、楽しさを実感しながら運動習慣を確立できる環境づくりを進め、体力のさらなる向上と定着を図っていく。